

広報

あかいけ

10

- 戸籍電算化がスタート
- 童謡まつりIN赤池

探してみよう！ボランティアって何だろ？

特集

広がるボランティアの輪

ボランティア専用袋

(町内一斉清掃用)

燃えるもの

米田町・金田町
方城町・赤池町
赤池町民生委員会



◆目の不自由な人へ届けられる「カセットテープの広報あかいけ」。その制作には、2人がかりで4日間以上かかるという。

町が財政再建団体になってから、増えてきたボランティア団体。いま、その活動の輪が広がりを見せています。
ボランティアって何だろう？ 私たちの暮らしや町づくりはどう関わっているのでしょうか。みなさんの取り組みからボランティアについて探ってみました。

◎特集 ボランティアって何だろう？ みんなの取り組みから探る

広がるボランティアの輪



「い」んには青い鳥です」「あー待ったよ」…。毎月上旬、目の不自由な人に届けられる一二〇分テープは、そんな挨拶から手渡されます。

社会福祉協議会主催の朗読講習会を受講したメンバーで、四年前に発足した朗読の会「青い鳥」。町内の目の不自由な人のために「広報あかいけ」をはじめ「社協だより」や「あがいの小話」などを朗読し、録音したカセットテープを配布しています。毎月発行している広報紙の録音は二人がかりで四日間以上かかるという。ページを分担して、黙読→音読→吹き込み→確認→訂正を二人それぞれが行い、さらに八本にダブルして配布されます。ペラペラとめくると、何て事ない二〇ページの広報紙。しかし、それ



▶カセットテープは町内8件に青い鳥の会員が手渡しする。お届けした時の笑顔がうれしそう。

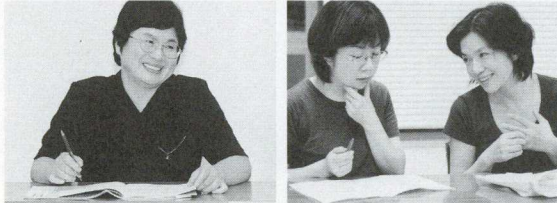
を聞き取りやすいリズムでわかりやすく朗読すると、その時間は一二〇分にもなります。

それだけ時間がかかるのは、掲載写真の説明や改ページの状況など、聴者への細やかな配慮がなされているからにほかなりません。

録音は主に自宅で行うため、車の騒音、鳥や犬の鳴き声などが入り、中断することもしばしば。時には、ボンボン時計の音まで入ってしまったこともあったとか。そんな悪戦苦闘の作業を経て、一二〇分テープで作るもう一つの「広報あかいけ」が完成するので。

「お届けした時の笑顔が何よりうれしいです。自分自身勉強にもなるし、楽しく活動しています」と語る会員のみなさん。運営資金は福祉バザーで集め、活動しています。「将来は、もっと勉強して録音図書をつくりたいです」と笑顔で語ってくれました。

当初、ささやかでも幸せを運びたいという意味でつけた「青い鳥」の会名。今や十二人の会員で、大きな幸せを毎月八人のみなさんに届けています。



◆月2回開かれる定例会。この日は「ひこさんがわ夢コンサート」の打ち合わせが行われていた。左上の写真が会長の桑野京子さん（市津）。

一二〇分テープで作る

もう一つの「広報あかいけ」

朗読の会「青い鳥」

「青い鳥」のみなさんの朗読は、聴きやすく毎月楽しみにしています。とくに、町のイベントの記事を聴くと、「つい」参加できたらいいな」って思ってしまうんです。子どもたちの元気な姿、町や行事のイメージが広がりますね。

私たちが盲学校に通っていた頃は「福祉」という言葉を聞いたこともありませんでした。ところが、今ではごく当たり前のように福祉サービスを受けることができます。本当にありがたいことです。

「青い鳥」のみなさんが作るテーブルには、そうとうの労力と時間が費やされるのだと思います。それを考えると心から感謝の気持ちでいっぱいになります。



榎原 真理子さん(本町)

▶針灸マッサージを営む榎原さん(本町)。趣味の俳句で一句お願いしました。「青い鳥秋の一日を テープ聴く」。青い鳥のみなさんに捧げる句です。

制作の苦勞を思うと感謝の気持ちでいっぱいに…



朗読の会「青い鳥」のみなさん

愛聴者の声

毎月楽しみにしてるんですよ…

町の風景、賑やかな行事の様子が浮かんできます



田中 末人さん(稲荷町)

▲米穀店を家族で営む田中さん。息子の浩二さんと。

テーブルが届くのが待ち遠しくて、ついつい「まだか、まだか」と催促してしまうんです…。

二〇年前に突然視力を失ったんですが、赤池の風景や行事の賑やかさはハッキリとまぶたに焼き付いてますよ。だから、テーブルを聴くと、その様子が浮かんでくるんです。広報は私にとって貴重な情報源。特にスポーツ記事が好きですね。

こんな事言っちゃ失礼ですが、最初はヘタクソでしたよ。しかし、いまではプロ並みにまで上達しています。「音声を大きくしてくれ」とか、いろいろ勝手な注文をつけますが「青い鳥」のみなさんには、本当に感謝しています。恩返ししたいという気持ちもいつも持っていますよ。

会員の自主的な活動で配食サービスをサポート

配食ボランティア「そよ風」

メンバーそれぞれが自主的に活動しているので、月に一回の試食会以外は、あまり会う機会がないんですよ。

六五歳以上のひとり暮らしの人を対象に、社会福祉協議会が毎週水曜日に行う配食サービス。そのお弁当、四〇件を届けるのは「自分の空いた時間にボランティア活動がしたい」

という人たちが集まった配食ボランティア「そよ風」のみなさんです。

代表の中野清子さん(南町)は、自営業を営むかわら、民生委員や商工会婦人部長など多くの役をこなしながらボランティア活動をしています。

「行政や社協ができないことをボランティアでサポートしよう」と十三年前に立ち上がった「そよ風」は、現在会員十四人。一人が、およそ五〜六件分のお弁当を自家用車で届けています。そんなボランティアの協力がないと成り立たない配食サービスは、別に二つのメリットがあります。一つは「会話ができる」ということ。一時間もあれば二〇件くらいは届けられるのですが、一人が五〜六件を受け持つ理由は、届け先で楽しい会話をするからです。一人暮らしのお年寄りにとって「会話」は非常

に重要なことなのです。

もう一つは「安否の確認」です。毎週水曜日に訪問することによって、お年寄りの健康状態などを確認することが出来ます。具合が悪いときなど、何かあればそれに対応することが出来ます。

会員それぞれが自主的に配食サービスを支える「そよ風」のみなさん。その活動は、町の福祉の一翼を担っています。



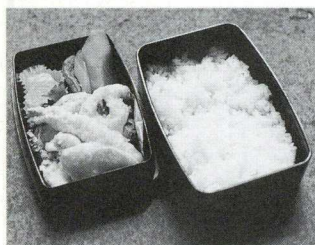
▲両手にお弁当を抱える中野さん。社会福祉協議会でお弁当を受け取り、お届け先に向かう。

◀「毎週水曜日が楽しみです。ひとりで食べるのは味気ないので、こうして二人で楽しくおやべりしながら食べるんですよ」と仲の良い山本政子さん(本町・写真中央)と、森トモ子さん(稲荷町・写真右)。

メニュー



お届け先で楽しい会話を



▲今日のメニューは「天ぷら」。バランスのとれたおかずに、ヤクルト1本が付いて、1食300円で配食している。

